

## 外来種対策（植物）について

高知河川国道事務所  
河川管理課 上山政広

### 1. はじめに

近年、在来種への影響が危惧されているオオキンケイギク（多年草）を対象として、高知河川国道事務所で行っている外来種対策について紹介します。



### 2. 1 外来種対策の概要

平成16年に特定外来法が施行されたことに伴い、四国地方整備局においても、四国地方整備局管内外来種対策（案）を平成19年に作成し、効果的かつ効率的な河川維持管理を目指しています。なかでも、特定外来種に指定されているオオキンケイギクは強靱な繁殖力を持っており、全国的に野生化が見られ、河川敷や道路にしばしば大群落をつくるため、在来生態系への影響が特に危惧されている植物です。四国内の河川においてもほとんどの河川で繁茂が確認されているものの、効果的な対策方法が確立されていないのが現状です。そこで、本事務所では平成20年度からの「河川維持管理技術検討会」において、オオキンケイギクの防除課題について検討し、各事務所との情報共有及び技術力の向上を目指しています。具体的な外来種対策としては、平成20年度より仁淀川と宇治川の堤防に、調査区域を設け、代表的な防除方法（除草、抜根、野焼き、薬剤散布）及び、モニタリング調査を実施しました。



写真-1 オオキンケイギク（宇治川）

### 2. 2 実施内容

#### ①仁淀川調査区

施工箇所：仁淀川左岸7K/0

調査期間：平成20年5月～定期調査

防除方法：刈取（肩掛け式）（写真-2）

抜根（人力）（写真-3）



写真-2 刈取（肩掛け式）



写真-3 抜根（人力）

春期（5月）に施工を行い、定期的にモニタリング調査を実施しました。また、施工回数による効果を比較するため施工区域の半分で秋期（10月）にも施工を行いました。

#### ②宇治川調査区

施工箇所：宇治川左岸3K/0

調査期間：平成20年5月～定期調査

防除方法：野焼き（写真-4）

薬剤散布（写真-5）



写真-4 野焼き



写真-5 薬剤散布

除草後2～3週間乾燥させた後に施工を行いました。野焼きは50㎡（5m×10m）行

い、薬剤はラウンドアップ（50倍希釈）を使用し、調査区域（1.7m<sup>2</sup>）に散布しました。

### 2. 3 モニタリング調査結果

#### ①仁淀川調査区

刈取箇所では草高は低いものの根が発達し（写真－6）、ロゼット葉（地表に平らに並んだ葉）が繁茂しています。そのため数ヵ月後には再び葉数を増やしています。抜根箇所では刈草箇所に比べ、根は小さく（写真－7）、2回施工のほうが拡大抑止効果が高いことが判明しました。



写真－6 刈取箇所(5ヵ月後)

表－1 仁淀川調査区モニタリング結果（株数比較）

調査区	対策	施工回数	平成20年		平成21年	備考
			5/28(当初)	10/20(施工後)	5/7	
仁淀川	抜根	1回/年	26	15	29	4m <sup>2</sup> 当たりの株数
		2回/年		0	12	
	刈取	1回/年	20	33	42	
		2回/年		50	60	



写真－7 抜根箇所(5ヵ月後)

#### ②宇治川調査区

野焼き箇所では刈草はほとんど燃えているもののオオキンケイギクの草元部は残存しており（写真－8）、3ヵ月後には葉が再生しています。しかし4ヵ月後には株数は減少しております。成長初期に淘汰されたものと推測されますが、今後詳しく調査する必要がありますと考えています。薬剤散布箇所ではほとんどの草が枯れ、4ヵ月後にはアキノエノコロクサやコセンダクサ等の在来種の出現が確認されました。（写真－9）



写真－8 野焼き箇所(施工後)

表－2 宇治川調査区モニタリング結果（株数比較）

調査区	対策	平成20年	平成21年		備考
		12月中旬(当初)	3/26	5/7	
宇治川	野焼き	25	15	8	2m <sup>2</sup> 当たりの株数
	薬剤散布	15	0	1	1m <sup>2</sup> 当たりの株数



写真－9 薬剤散布箇所(4ヵ月後)

### 3. まとめ

オオキンケイギクは多年草であり、また、種子の飛散から発芽まで2～3年土中で過ごすことのある植物であるため、継続して除草を行わないと効果が確認できません。

そのため、オオキンケイギクの効率的な除草方法の評価を行うには、今後も継続的に調査を行う必要があります。今後、有効な防除時期(実生～結実前)や防除回数(1～4回/年)を検討することで、外来種対策における効率の向上及びそれに伴う管理コスト縮減を目指していきたいと考えています。

また、四国内のオオキンケイギクが繁茂している地域の除草状況をとりとまとめ、河川維持管理技術検討会等を通じて情報の共有及び技術力の向上を図っていききたいと考えています。